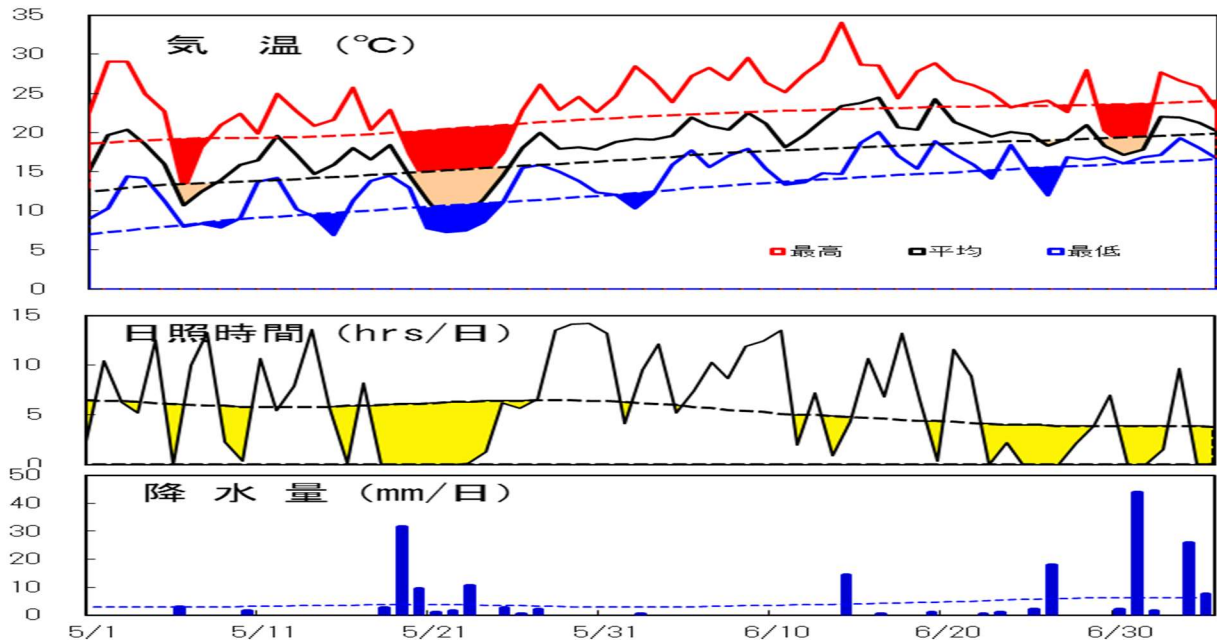


～6月の高温で回復、平年を僅かに上回る生育、適期の追肥や防除を！！～

1 令和2年の気象(古川アメダス)



〔1か月予報:気温, 降水量, 日照時間の確率(%) 東北地方〕 7月4日～8月3日

- ・東北太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・気温：高い確率70%，降水量：平年並，多い確率ともに40%，日照時間：同30%
- ・週別の気温は、1週目：高い確率70%，2週目：高い確率60%，3～4週目：平年並または高い確率ともに40%

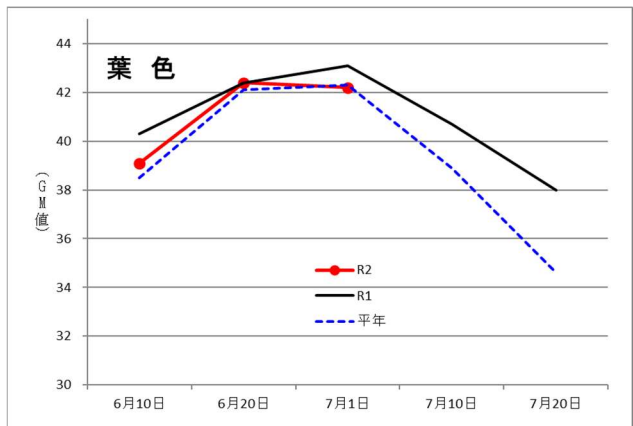
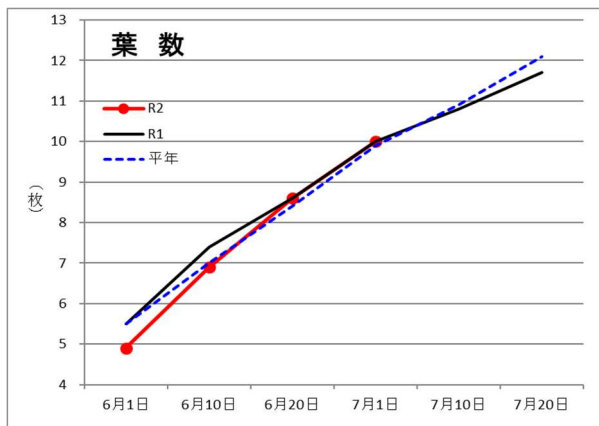
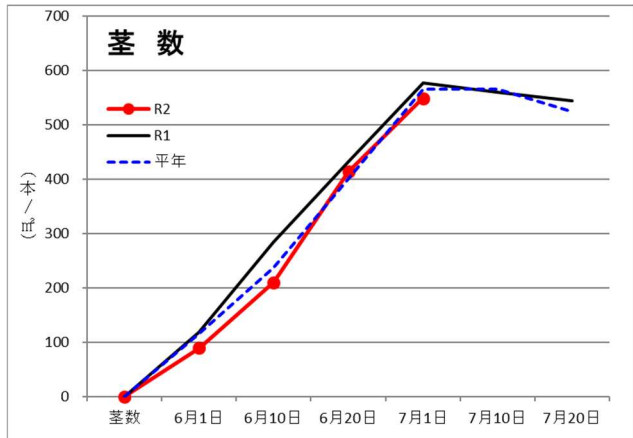
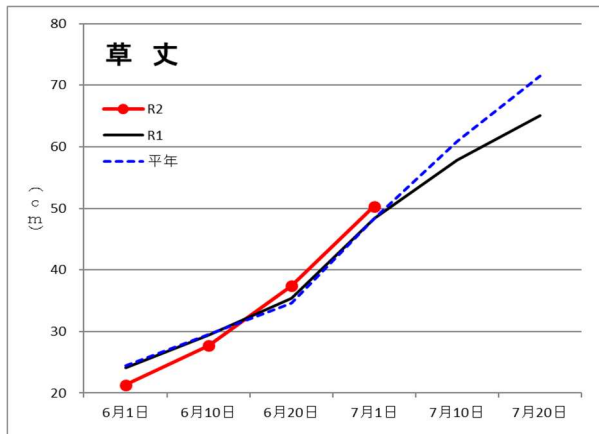
【気温】東北地方	10	20	70
【降水量】東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】東北太平洋側	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 東北地方	10	20	70
2週目 東北地方	10	30	60
3～4週目 東北地方	20	40	40

2 生育状況

- ・草丈：平年及び前年に比較して、6/10まで低くそれ以降は高く推移している。
- ・茎数：草丈に類似した推移であるが、6/20以降平年並みで前年よりはやや少ない。
- ・葉数：6/10までは少なく、それ以降は平年及び前年並みで推移している。
- ・葉色：平年よりやや濃く、前年よりは低く推移している。



### 3 今後の管理

#### (1) 水管理で適正生育量確保

- ・有効茎数の確保された圃場では、中干の徹底により、茎数を管理する。
- ・中干は、土壤に亀裂が軽く入る程度に十分に行い、その後は飽水管理とする。

#### (2) 肥培管理

- ・圃場で主茎を数本抜いて、幼穂の発育状況を確認し肥培管理に努める。  
(幼穂形成期：幼穂長 1~2mm, 減数分裂期 3~12cm)
- ・近年、温暖化で施肥窒素の消失が早く、葉色の低下した圃場が見受けられるので、圃場や幼穂の発育を確認しながら、適期を逃さず、追肥作業施する。〔ひとめぼれ 7/1 の目標値〕

品種名	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	1	1
ササニシキ	-	1~1.5
つや姫, まなむすめ	2	-

草丈(cm)	45~48
茎数(本/m <sup>2</sup> )	460~520
葉緑素値	40~42

※(N kg/10a)

#### (3) 病害虫の発生と防除

##### ①いもち病に注意

- ・病害虫防除所で感染好適日が下記のように HP に掲載されるので注意してチェックする。
- ・適度な温度と湿度があれば、いもちは一気に発生するので水田の見回りを密にする。

【いもちの発病：平均気温が 20~25℃, 曇りや雨の日が多いことが好適 ●が感染好適】

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	亘理	丸森	
7/1	—	○	—	●	—	—	●	—	●	●	—	—	—	○	●	○	—	—	—	—	—	—	—
7/2	—	—	—	—	—	?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●	—	●	●	—
7/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/5	○	○	●	●	●	●	—	●	●	●	●	●	△	○	●	△	△	—	—	—	—	—	—

## ②カメムシの防除

- ・畦畔や周辺にあるイネ科植物にカメムシが見られるので、草刈を出穂直前にはしない。
- ・県内水田を見るとホタルイが優先している圃場が多く、斑点米発生防止のため、雑草防除や虫害防除を徹底する。
- ・6月中旬の防除所調査では、水田周辺の牧草地（6地点）におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は100%で平年(82.0%)よりやや高く、すくい取り虫数は37.3頭であった。

